

授業概要

子どもへの豊かな音楽経験を提供できる保育者として求められる童謡など子どもの歌の弾き歌いを指導する。専任による全体授業と非常勤講師による個人レッスンを並行して行う。全体授業では子どもの歌の歌唱及びコード伴奏等を指導し、個人レッスンは経験の異なる学生に対応した複数教員で指導する。

授業計画

第1回	(クラス授業) 春期ガイダンス 歌唱について (個人レッスン) 学生のレベルに応じた教材決定	
第2回	(クラス授業) 単音伴奏「ちょうちょ」「ぶんぶんぶん」	(個人レッスン)
第3回	(クラス授業) コード演習「おはよう」「おべんとう」	(個人レッスン)
第4回	(クラス授業) コード演習「おかえりのうた」	(個人レッスン)
第5回	(クラス授業) 「ちゅうりっぷ」「きらきらぼし」	(個人レッスン)
第6回	(クラス授業) 「めだかのがっこう」	(個人レッスン)
第7回	(クラス授業) 「さよならのうた」	(個人レッスン)
第8回	(クラス授業) 中間実技テスト及び講評・課題解説	(個人レッスン)
第9回	(クラス授業) 「とけいのうた」	(個人レッスン)
第10回	(クラス授業) 「はをみがきましょう」	(個人レッスン)
第11回	(クラス授業) 「こいのぼり」	(個人レッスン)
第12回	(クラス授業) 「かたつむり」	(個人レッスン)
第13回	(クラス授業) 「あめふりくまのこ」	(個人レッスン)
第14回	(クラス授業) 「うみ」	(個人レッスン)
第15回	(クラス授業) 「たなばたさま」	(個人レッスン)
第16回	実技試験	

到達目標

クラス授業課題曲について八長調のコード伴奏をつけることができる。
個人レッスン選択曲についてテキスト通り弾き歌いができる。

履修上の注意

遅刻3回を欠席1回として扱う。20分以上の遅刻は欠席として扱う。
クラス授業課題曲・個人レッスン選択曲の決められた数を合格しないと、実技試験を受けることはできない。
授業簿に必ず練習状況を記入し、レッスン時に提出すること。

予習・復習

授業外の自己練習を必ず行ってレッスンに臨むこと。

評価方法

実技試験 70%、中間テスト・全体授業の課題取り組み 20%、受講態度 10%

テキスト

『ポケットいっぱいのおうた』教育芸術社
課題資料配布

授業概要

子どもへの豊かな音楽経験を提供できる保育者として求められる童謡など子どもの歌の弾き歌いを指導する。子どもの歌と伴奏法Ⅰを踏まえ、八長調以外の調で子どもの歌の弾き歌いができるよう指導する。専任による全体授業と非常勤講師による個人レッスンを並行して行う。

授業計画

第1回	(クラス授業) 春期ガイダンス 移調について (個人レッスン) 学生のレベルに応じた教材決定	
第2回	(クラス授業) 「どんぐりころころ」	(個人レッスン)
第3回	(クラス授業) 「とんぼのめがね」	(個人レッスン)
第4回	(クラス授業) 「ぞうさん」	(個人レッスン)
第5回	(クラス授業) 「山のおんがくか」	(個人レッスン)
第6回	(クラス授業) 「手をたたきましょう」	(個人レッスン)
第7回	(クラス授業) 「いるかはざんぶらこ」	(個人レッスン)
第8回	(クラス授業) 中間実技テスト及び講評・課題解説	(個人レッスン)
第9回	(クラス授業) 「まっかな秋」	(個人レッスン)
第10回	(クラス授業) 「もみじ」	(個人レッスン)
第11回	(クラス授業) 「ゆきのこぼうず」	(個人レッスン)
第12回	(クラス授業) 「ゆき」	(個人レッスン)
第13回	(クラス授業) 「おしょうがつ」	(個人レッスン)
第14回	(クラス授業) 「バスごっこ」	(個人レッスン)
第15回	(クラス授業) 「さんぽ」	(個人レッスン)
第16回	実技試験	

到達目標

クラス授業課題曲について八長調以外の調のコード伴奏をつけることができる。
個人レッスン選択曲についてテキスト通り弾き歌いができる。

履修上の注意

遅刻3回を欠席1回として扱う。20分以上の遅刻は欠席として扱う。
クラス授業課題曲・個人レッスン選択曲の決められた数を合格しないと、実技試験を受けることはできない。
授業簿に必ず練習状況を記入し、レッスン時に提出すること。

予習・復習

授業外の自己練習を必ず行ってレッスンに臨むこと。

評価方法

実技試験 70%、中間テスト・全体授業の課題取り組み 20%、受講態度 10%

テキスト

『ポケットいっぱいのおうた』教育芸術社
課題資料配布